

-SENZOKUGAKUEN college of Music-

電子オルガンによる
ピアノコンチェルトと管弦楽曲のタペ

2021. 7. 14(水)

18:00 開演 17:30 開場

洗足学園音楽大学

前田ホール

- Program -

◆第1部

指揮:竹内 聡

1. 「こうもり」序曲 / J.STRAUSS

電子オルガン 堀田真菜(学3) 向田真未(学2) LIU ZIBO(学2)

打楽器 森奈那子(学4) 福本奏音(学3) 小山梓(学2)

2. ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466 / W.A.Mozart

I Allegro

II Romanze

III Allegro assai

ピアノ 村木夏帆(学3)

電子オルガン 内海菜々美(学3) 米子理紗(学3) 瀬戸口祥(学2)

打楽器 小山梓(学2)

3. ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22 / Saint-Saens

I Andante sostenuto

II Allegro scherzando

III presto

ピアノ 若佐太郎(学3)

電子オルガン 1楽章 樋口友美(学4) 渡木優乃(学3) 石倉杏華(学2)

2・3楽章 窪山花(学2) 青木美苗(学2) 稲葉絢音(学2)

打楽器 森奈那子(学4) 福本奏音(学3)

◆第2部

指揮:竹内 聡

1. 序曲「コリオラン」 / L.V.Beethoven

電子オルガン 古賀美咲(学4) DING YU(学2) 渡邊琴美(学2)

打楽器 近藤寛斗(学3)

2. ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16 / E.Grieg

I Allegro molto moderato

II Adagio

III Allegro moderato molto e marcato

ピアノ 中村春花(学3)

電子オルガン 1楽章 海老原菜月(学4) 伊藤友香(学2) SHAO XIAOLUO(学2)

2・3楽章 神長進之介(学4) 板橋美波(学3) 兒玉もも(学2)

打楽器 近藤寛斗(学3)

- Program note -

「こうもり」序曲 / J.STRAUSS

シュトラウスII世は、「美しき青きドナウ」をはじめとするワルツやポルカの名曲を数多く残した後、40代半ばの1870年頃からはオペレッタ（喜歌劇）の創作に主軸を移した。そして1874年初演の第3作「こうもり」（全3幕）で大成功を収め、同曲はシュトラウス自身のみならず、古今の全オペレッタの代表作となった。

喜歌劇「こうもり」の物語は、友人アイゼンシュタインからこうもりの扮装のまま置き去りにされたことで、「こうもり」のあだ名が付いたファルケ博士が仕掛ける、愉快的復讐劇。華やかな夜会に、アイゼンシュタイン夫妻の浮気や小間使いの野心などが絡み、最後は「全てシャンパンのせい」となる。

序曲は、劇中の旋律が次々に登場するポプリ（接続曲）風の構成。曲は、元気よく開始。オーボエの柔らかな旋律、第二幕の6時の鐘、各幕の三重奏や第二幕のワルツなど様々な旋律が登場し、華やかに終結する。浮き立つような気分の中にメランコリックな風情が混じった愉しき満点の名曲だ。

ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466 / W.A.Mozart

この曲はモーツァルトの作曲家としての全盛期にあたる1785年に作曲され、彼の数あるピアノ協奏曲の中で2曲しかない短調作品の最初の作品である。華やかさが求められた当時の協奏曲とはうってかわって、怪しく不安げな旋律、劇的な展開、厳しさと激しさの入り混じった感情など、強い表現性を持ち、この作品の特異な響きはしばしば「デモーニッシュ（悪魔的）」と表現される。第1、3楽章共に、作曲家自身によるカデンツァは残っておらず、現在最も演奏されているのはベートーヴェンのカデンツァであるが、今回はブゾーニ、クララ・シューマンのカデンツァをそれぞれ演奏する。

第1楽章：Allegro

アレグロ。協奏的ソナタ形式。冒頭のシンコペーションが不気味でまた激しくもあるのに対し、一転して寂寥感すら感じさせる独奏ピアノの入りが印象的。

第2楽章：Romanze

ロマンス。三部形式。穏やかで澄みきったカンタービレ楽句で始まるが、ト短調の中間部では突如としてピアノと木管楽器による嵐のような音型が繰り返される。

第3楽章：Allegro assai

アレグロ・アッサイ。ロンド・ソナタ形式。激しく攻撃的な短調楽想で始まるが、最終的には長いコーダにおいて長調に転調し、華々しく作品を閉じる。

ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22 / Saint-Saens

1868年に作曲され、5月13日にサン＝サーンス自身のピアノ、友人のアントン・ルビンシテインの指揮によってパリで初演された作品。ルビンシテインはこの演奏会が指揮者としてのデビュー公演だった。しかし、この初演は不首尾に終わっている。後年サン＝サーンスは、初演の不首尾は練習時間の不足が原因であると告白しており、事実、作曲に着手してわずか3週間で初演に漕ぎついている。

初演当時、このピアノ協奏曲の各楽章は音楽的コントラストが非常に顕著であるとの指摘があり、作曲家でピアニストであるジグムント・ストヨフスキは「J.S.バッハに始まり、オッフエンバックに終わる」という有名な言葉を残している。一方、フランツ・リストはこの作品を高く評価し、そのためか、やがてこの作品はサン＝サーンスの代表作の一つとして数えられ、今日では第2番は第4番と並んで、サン＝サーンスが作曲したピアノ協奏曲の中では最も人気が高い作品となっている。

序曲「コリオラン」 / L.V.Beethoven

古典派の巨匠ベートーヴェンが、“傑作の森”と呼ばれる中期真っ只中の1807年に完成した作品。ウィーン劇作家コリンの戯曲「コリオラン」に感銘を受けて作曲したが、劇音楽は書かれていない、単独の序曲。コリンに献呈したが、この戯曲の上演時に演奏される事はなかった。

この戯曲の題材となった「コリオラン」というのはプルタークの「英雄伝」に登場するローマの英雄で、ただ一人でコリオライの城を攻め落としたため「コリオラヌス」と呼ばれるようになった人物である。功賞後、政治的な諍いで追放され、敵軍と結託して逆襲を謀ったが、母や妻の説得に従って断念。最終的に、コリオラヌスは謀殺されているので、音楽にも悲劇的な雰囲気漂っている。

曲は、アレグロ・コン・ブリオ。ハ短調。弦楽器によるフォルティシモで始まり、ユニゾンが緊張感を感じさせる。そのあとも緊張感に富む暗い和音が続く。第1主題は主人公コリオランという人やコリオランの野心を描いたといわれている。

その後、第1主題とは対照的に優美な第2主題が出てくる。こちらは、弦楽器によってなだらかに演奏される。ほっと一息付くような雰囲気は、母や妻を象徴していると言われている。終始緊張感を漂わせながら進行し、最後は息が絶えたかのように最弱音のピツィカートで終結する。

ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16 / E.Grieg

グリーグは北欧ノルウェーの国民楽派の第一人者である。

この曲は、1868年デンマーク、コペンハーゲン郊外で作られ、次の年4月にノルウェーのピアニスト、ネウパルトの独奏により初演された。1870年にはグリーグはローマに滞在していたリストを訪ね、リストはこの難しい協奏曲を初見で弾きこなして驚かせた。リストはこの協奏曲の独創性とノルウェー風の音調に感嘆して、グリーグを大いに励ました。

グリーグの唯一のピアノ協奏曲は、シューマンの同じイ短調のピアノ協奏曲から強い影響を受けている。この曲は、豊かで魅力的な楽想に溢れ、グリーグ25歳の若々しく瑞々しい感性が隅々まで光った傑作であり、ロマン派を代表する優れたピアノ協奏曲である。

第1楽章：Allegro molto moderato

イ短調、ソナタ形式。ピアノの華麗な独奏で始まる。冒頭の二度下行して三度下行する音型は、ノルウェー民謡によくあるもので、グリーグが好んで用いる素材である。第1主題もノルウェー風の鄙びた旋律で始まり、紡ぎ出しは豊かな情感が溢れる。激しく高揚する結尾楽句に続いて、展開部はテンポを落として、フルート独奏で始まる。再現部の終わりには大規模できらびやかなカデンツァが付く。

第2楽章：Adagio

変ニ長調、三部形式。主部は弱音器付の弦楽で奏される甘美な旋律。中間部ではピアノが流麗な歌で透明な叙情を響かせる。

第3楽章：Allegro moderato molto e marcato

イ短調、ロンド・ソナタ形式。ロンド主題は行進曲風の旋律で、2拍子のノルウェー舞曲ハリングを想起させる。挿入句はピアノの強力な和音で始まる。中間部は、フルートの美しいモノローグが印象的だ。再現部のカデンツァの後には、テンポが速まり、3拍子のコーダとなる。ここで頻りに現れる非和声音（嬰ト音ではなくト音）はノルウェー風とリストが激賞した響きである。最後は中間部の旋律で大いに高揚し、ヴィルトゥオーソ風のピアノで華やかに曲を終える。

【ご来場のお客様へご協力をお願い】

◎入場制限について（次に該当する方はご入場いただけません）

- ・37℃以上の発熱がある方、発熱が続いている方
- ・風邪の症状（発熱、咳、くしゃみ、喉の痛み等）がある方
- ・強いだるさ（全身倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある方
- ・その他体調に不安がある方（味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節痛、下痢、吐き気等）
- ・過去2週間以内に新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある方
- ・過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある方

※基礎疾患（糖尿病・心不全・呼吸器疾患等）がある方、妊娠中の方は、医師の判断や関係機関の情報を確認の上、慎重なご判断をお願いします。

◎ご入場に際し、以下の事項についてご協力をお願いします。

- ・上記「入場制限について」への同意
- ・感染者が発生した場合には、必要に応じてご来場者情報を保健所へ提供させていただく場合がございますので予めご了承ください。（提出いただいた個人情報は新型コロナウイルス感染の発生がなかったことを確認の上、演奏会約三か月後に適切に削除します
- ・マスクの着用やソーシャルディスタンスの確保など新しい生活様式におけるエチケットの厳守をお願いします。
- ・楽屋面会、花束やプレゼントの持ち込みはお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願いいたします。

【監修】

電子オルガンコース 赤塚 博美(統括教授)

ピアノコース 清水 将仁(統括教授)

【指揮】 竹内 聡

【スタッフ】 AC：横山 仁一 音響：能藤 伸(ミュージック・クラフト)